

軽井沢町版レッドデータブックの構成案

1 全国の市町村にてこれまでに発行されたレッドデータブック

冊子体のRDBについて策定されている市町村について確認した。長野県内では安曇野市・塩尻市・千曲市などで策定されており、既に改訂が行われている市町村もあった。

市町村	レッドデータブック名称	最新版 発行年	過去の改訂状況	公開 状況
名古屋市 (愛知県)	レッドデータブックなごや 2025 (植物編・動物編)	2025	2015 版あり → 2025 改訂	PDF(本体)
岐阜市 (岐阜県)	岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023	2023	2015 頃先行版相当 → 2023 刊行	PDF(本体・概要版)
鳥羽市 (三重県)	鳥羽市 海のレッドデータブック 2023	2023	—	公開なし
那須塩原市 (栃木県)	那須塩原市レッドデータブック	2017	レッドリストは 2023 改訂	PDF(概要版)
安曇野市 (長野県)	安曇野市版レッドデータブック (改訂版)	2024	2014 初版 → 2024 改訂	PDF(本体・概要版)
厚木市 (神奈川県)	厚木市レッドデータブック	2021	—	PDF(本体・概要版)
新潟市 (新潟県)	新潟市レッドデータブック	2010	—	PDF(本体)
牛久市 (茨城県)	牛久市レッドデータブック(初版)／追補版(植物編)	2006	2006 初版 → 植物編 追補版 2020	公開なし
塩尻市 (長野県)	残したい塩尻の動植物(塩尻市版RDB)	2006	—	PDF(本体の一部)
千曲市 (長野県)	千曲市版レッドデータブック	2011	レッドリスト 2022 改訂	PDF(本体)
松山市 (愛媛県)	レッドデータブックまつやま 2012	2012	2002 版 → 2012 版	公開なし
佐渡市 (新潟県)	佐渡市レッドデータブック	2022	—	PDF(本体)
岡崎市 (愛知県)	レッドデータブックおかざき 2014	2014	RL は 2024 改訂	PDF(本体)
宝塚市 (兵庫県)	宝塚市生態系レッドデータブック	2012	—	PDF(本体)
三田市 (兵庫県)	未来に伝えたい三田の自然 －生態系レッドデータブック－	2003	—	PDF(本体)

※一次情報（自治体サイトや公開 PDF）で「冊子体の RDB (=解説書)」の存在が確認できた市町村

2 参考となる市町村版レッドデータブックの目次構成

近年発行または改訂され、情報量が豊富な5市（名古屋市、岐阜市、安曇野市、岡崎市、千曲市）について目次構成を確認した。いずれも大きくは「目的・評価・分類群別解説・保全・資料」という構成であった。千曲市ののみ全種目録を掲載し、岐阜市はブルーデータブックを併録していた。安曇野市・千曲市・岐阜市では外来種や重要環境の章が充実しており、市民参加や普及を重視する構成となっていた。

主要章・構成要素	名古屋市	岐阜市	安曇野市	岡崎市	千曲市	備考・補足
1. 作成の目的・背景	●	●	●	●	●	全市共通。RDB の意義・目的を明記。
2. 作成体制・経緯	●	●	●	●	●	調査協力者・委員会・関係機関の記載あり。
3. 調査方法・評価基準	●	●	●	●	●	各市で評価カテゴリ(CR～NT)を定義。
4. 自然環境の概要(地形・気候・植生)	△	●	●	●	●	名古屋市では簡略化(背景として触れるのみ)。
5. 現在の生物多様性の状況	●	●	●	●	●	減少傾向・主要な脅威要因を整理。
6. 絶滅危惧種(レッドリスト種)の解説	●	●	●	●	●	全市で最も中心となる章。分類群ごとの個別解説。
7. 無脊椎動物(昆虫類など)	●	●	●	●	●	各市で独自の細分類(チョウ類・トンボ類など)。
8. 脊椎動物(哺乳類・鳥類・両生爬虫・魚類)	●	●	●	●	●	共通。鳥類・魚類の章が厚い傾向。
9. 植物(維管束・群落・湿原種など)	●	●	●	●	●	名古屋市ののみ植物編を独立冊子化。
10. 外来種・要注意種(ブルーリスト等)	△	●	●	△	●	岐阜市は「ブルーデータブック」として独立。
11. 重要な環境・生息地の紹介	△	●	●	△	●	千曲市・安曇野市で明確に章立て。
12. 自然環境保全・管理方針	●	●	●	●	●	普及・教育・保全活動の方針など。
13. 今後の課題と展望	●	●	●	△	●	各市とも終章で整理。岡崎市は簡略。
14. 全種目録	—	—	—	—	●	千曲市ののみ明示的に全掲載。
15. 注意喚起種(外来・拡大種)	△	●	●	△	●	岐阜市・安曇野市・千曲市に明示章あり。
16. 資料編(法制度・文献・県・国リスト)	●	●	●	●	●	全市で充実。
17. 協力者一覧・謝辞	●	●	●	●	●	全市共通。
18. 和名索引／分類索引	●	●	●	●	●	索引はすべてのRDBで付属。
19. 普及・市民向けコラム／Q&A	△	●	●	△	●	千曲市・安曇野市・岐阜市が積極的。

※詳細については別紙1（5市の目次部分抜粋）参照

3 軽井沢町版レッドデータブック策定の目的

3.1 軽井沢町の特性

- 国立公園区域を含む（上信越高原国立公園、妙義荒船佐久高原国定公園）
- 浅間山麓は広く国有林になっており、火山活動の影響を受けた範囲が存在
- 高原性湿原・冷涼気候帯の生物相が特徴的
- 私有地（別荘地やリゾート施設等）の占める面積が広く、別荘地開発や観光利用との関係調整が課題
- 地域住民だけでなく観光客・別荘利用者・企業も重要なステークホルダー

3.2 策定の目的

軽井沢町版 RDB の策定にあたっては、大きく分けて「科学的な役割」、「行政的な役割」、「地域連携と普及啓発」の 3 つの目的があると考えられる。

(1) 科学的な役割（町内の動植物の現状把握）

- 町内の動植物の現状把握（基礎情報の整備・体系化）
- 絶滅のおそれのある動植物の選定と評価（減少要因の整理）
→初回としてのリストアップ 今後継続モニタリング
- 調査データの蓄積と更新体制の確立（継続性）も重要

(2) 行政的な役割（都市計画、開発にあたっての配慮など）

- 都市計画・環境影響評価・保護地域設定に活用できる基礎資料の整理
- 森林管理や観光利用計画、開発事業などの際の基礎資料
- 住民・事業者との保全対策の調整のための基礎資料
- 守るべき重要な環境や生物の抽出、対策の検討

(3) 地域連携と普及啓発（町民の生物に関する理解向上）

- 「守るべき環境や生物」を明確化し、地域住民の自然環境への理解を向上
- 私有地の管理者や地域住民と協力した自然共生サイト登録の足掛かり
- 住民、別荘利用者、観光客向けの普及ツールとしての活用
- 学校教育やネイチャーツーリズムでの活用

★本 体 ⇒ 行政・専門家向けの軽井沢の自然を保全するための“精度の高い根拠資料”

★概要版 ⇒ 子ども達や幅広いステークホルダー向けの“分かりやすい普及啓発資料”

4 軽井沢町版レッドデータブック（本体）構成案

4.1 章立て案

既存の他地域の構成（主に名古屋市、岐阜市、安曇野市など）も参考にした、軽井沢町版のレッドデータブック本体の構成案を以下に示す。

章	内容ポイント	参考 (主に名古屋市、岐阜市、安曇野市)
第1章 軽井沢町版 RDB とは RDB の目的・評価基準・調査方法	町版 RDB の概要説明 県・国リストとの対応、RDB 掲載種の選定要件、カテゴリ説明、RDB 策定に実施した調査の方法	名古屋市：評価基準を明示 岐阜市：目的・体制の詳細を記載
第2章 軽井沢町の自然環境の特徴	地形（浅間火山）・冷涼湿地・環境区分	安曇野市：第2章に自然変化に関する章立て
第3章 軽井沢町に生息・生育する動植物	町内の動植物の概要 外来種の話も含めて紹介 全種目録は資料編？ もしくは別冊？ もしくは非公表？	RDB 冊子は希少種解説に特化し、全種目録は別管理か確認できない自治体が多い
第4章 レッドリスト選定種 ・分類群ごとの概要説明 ・選定種の説明	全分類群選定状況（カテゴリ別種数など）、全分類群レッドリスト一覧、減少要因など	岐阜市：危機要因を章内で整理
	植物／動物、分類群ごとに選定種の説明 ※詳細は「4.2 分類群別の種解説（第4章）の構成案」（次頁）参照	名古屋市：精緻な分類構成
第5章 重要な環境・景観および重点地域	町内における重要な環境や場所を紹介 (河川・池・草原・湿原・河畔林・農地・高標高帯など)	安曇野市：重要自然地を独立して章立て
資料編／索引	文献、策定に至る経緯、策定体制（委員、協力者、事務局）、法制度対応 全種目録？	3市とも採用

4.2 分類群別の種解説（第4章）の構成案

策定調査会議での決定に基づいた以下の分類群による区分とし、各分類群では「概要 → 絶滅危惧状況 → 種解説」の流れで構成する。

■植物編

- シダ植物
- 種子植物
- (必要に応じ) コケ植物／地衣／菌類／藻類
- 植物群落

■脊椎動物編

- 哺乳類
- 鳥類
- 爬虫類
- 両生類
- 淡水魚類

■無脊椎動物編

- 昆虫類（甲虫／チョウ／トンボ／その他）
- 底生動物
- クモ類
- 貝類

各分類群（●の項目）の構成

- ・軽井沢町における概況（軽井沢町全体の生息・生育種の状況）
- ・軽井沢町におけるレッドリスト掲載種の状況（絶滅危惧の状況）
- ・レッドリスト掲載種の解説

※詳細は「4.3 レッドリスト掲載種の解説の構成案」（次頁）参照

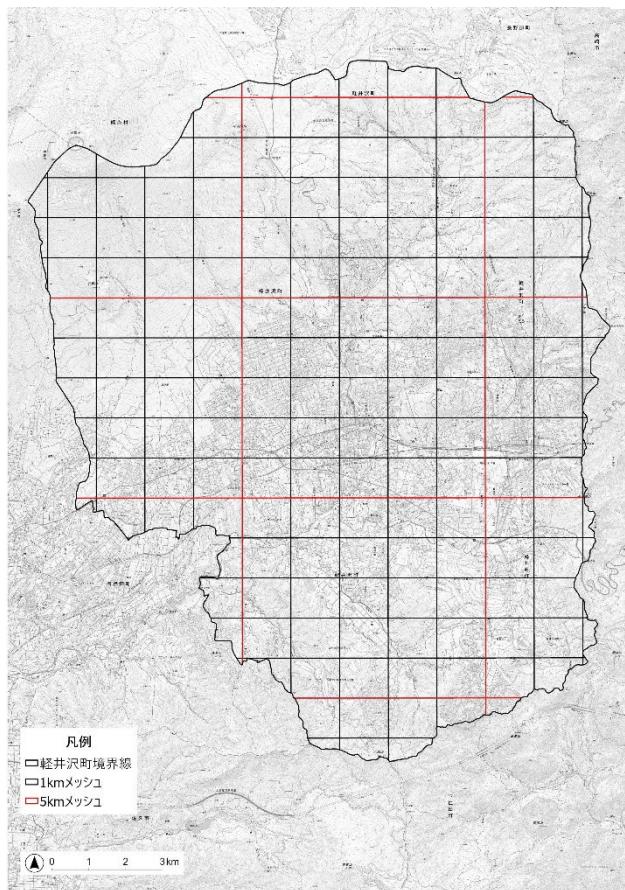
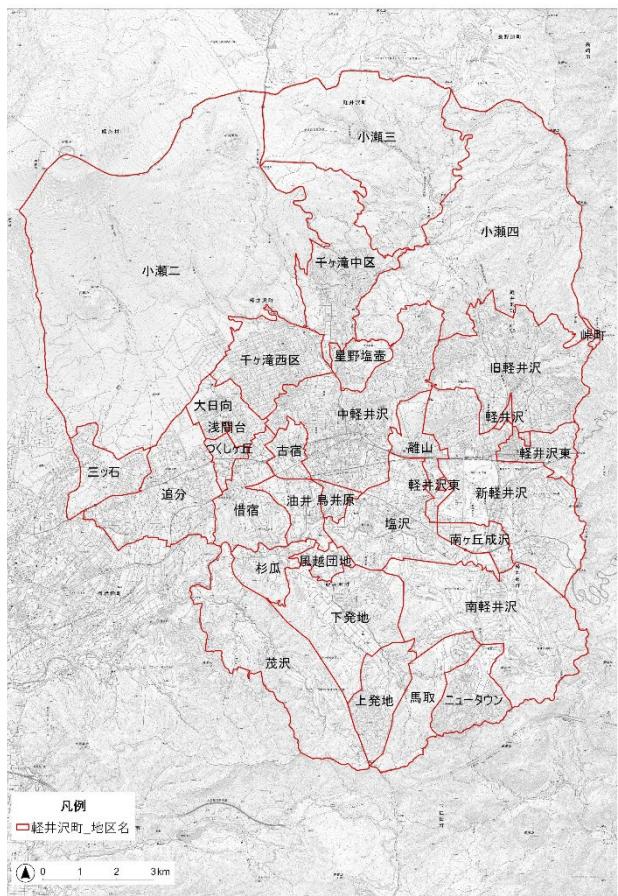
4.3 レッドリスト掲載種の解説の構成案

各掲載種の解説の構成案は、他の市町村や都道府県の構成を参考にしつつ、軽井沢町内での現地調査結果を活かし、軽井沢の現状を反映した内容（町内分布や生息・生育状況、減少要因など）や具体的な保全上の留意点について重視する。

項目	内容	記載項目 (案)
●種名、学名	・科名などどのように表記するか要検討	○
●写真	・できる限り軽井沢町で撮影されたものを使用 ・撮影者の記載方法や著作権の調整も 要検討 ※全種について掲載とするかは要検討	○
●評価カテゴリ	・軽井沢町のカテゴリのほか、環境省と長野県のカテゴリも記載	○
●法制度・指定状況の一覧	・国内希少・鳥獣保護・文化財なども記載	△
●特徴	・形態、識別ポイントなど ※あまり細かく書く必要はないか？	○
●生息・生育環境	・文章のほか、環境をカテゴリ分け(標高帯別:平野、山地、亜高山、高山、環境別:森林、河川、草原など)で区分する方法(安曇野市)なども考えられる	○
●現在の生息・生育状況	・調査結果から分かった軽井沢町内の生息状況	○
●分布図	・マッシュ表示、地区別表示など ※今後、表示方法の検討が必要	○
●確認記録 記録データ／根拠	・現地調査、文献・標本など 下記の文献などの扱いと合わせて要検討	△
●減少要因	・一般的な要因だけでなく、軽井沢町独自の要因も反映 ・外来種との関係など	○
●保全上の留意点	・減少要因を踏まえたなるべく具体的な内容を記載	○
●文献 ※確認記録のある文献	・引用文献、参考文献	△

※参考事例：別紙2（名古屋市、岐阜市、安曇野市ほかの種解説部分抜粋）参照

【分布図の表示案】



5 軽井沢町版レッドデータブック（概要版）構成案

概要版は、軽井沢町民・子供たちをはじめ、別荘利用者・観光客・事業者・行政関係者など、町内外に広く「軽井沢町の自然・動植物の魅力や価値と危機」を普及啓発していくための資料とすることが望まれる。

下記に記載する項目案を示す。

下記のような内容を想定するが、関連する専門用語やトピックなどをコラム的に整理するなど興味をもって手に取ってもらったり、環境学習に活用できるような内容を目指す。

章	内容ポイント
軽井沢の自然の特徴	地形・気候・自然環境(森林・草原・湧水地など)をイラストで解説
なぜレッドデータブックをつくるのか	絶滅危惧とは? RDB の目的を解説図などで平易に説明 生物多様性の重要性
軽井沢の絶滅危惧種たち	町の代表的なレッドリスト種の概要や代表種を写真+短文で紹介
町内の重要な自然環境	草原や河畔林など 5~6 地点を選び、位置図+景観写真などで解説
希少な動植物や自然環境を守るためにできること	町の施策紹介(環境保全条例、管理計画等)、 住民・企業・学校の活動例、観光と共生のルールなど 自然共生サイトの仕組み紹介?
軽井沢の自然に触れてみよう	市民科学・連絡制度・自然観察会・学校教育など 町内の自然関連団体紹介 町民を主体とした参加機会などを紹介
巻末資料	本体・県版・環境省 RDB へのリンク、QR コードなど

【体裁案】

- A4 判 20 ページ程度
- フルカラー、写真・イラスト主体
- 電子版 (PDF・Web 公開) ではリンクで本体も参照できるよう編集